

### (3) 楽しいなぞ解き文字……会意文字

#### 会意文字の見方・教え方

象形と指示が、いちばん古い文字の作り方ですが、これでは、物と事は表せても、物事の状態や動作について説明することができません。たとえば、「どうする」とか、「どんなだ」というようなことは、象形文字や指示文字では、なかなか表すことができません。

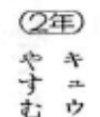
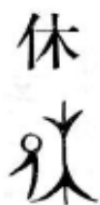
そこで、二つ、またはそれ以上の文字を組み合わせ、別の新しい意味を表すことを考え出しました。二つ以上の意味を合わせるというので、これを「会意文字」といいます。この字はかなりあります。

会意文字は、二つ以上の部品の組み合わせでできていますから、まず、分解できたら、その意味を考え、その文の筋と関連させて、「どんな意味だろうな。」と、考えてみることです。

部品と文の筋と、この二本の糸をたぐると、たいていは知らない漢字でも、かなり意味がはっきりつかめるようになるものなのです。

#### しぜんに漢字を読ませる

右の字は、人と木でできていますが、人と木はいろいろの意味で関係づけることができます。「人が木を切る」「た



き木を採る」「道具を作る」などという想像もできるかもしれませんが。それはそれでよいのです。

ただ、それだけではほんとうの解決はつきません。その字が、文の中で、どのように使われているかを見るのです。

「まり子さんは、つかれたので、木の下に行って休みました」とあったら、すぐに正しい読み方だわかるでしょう。

これを逆にいうと、ある漢字を教えるときにはこの方法を使え、ということです。

このような、未知の漢字がしぜんに読めるような文章の中で、「漢字を読ませる」のです。そして、子どもがしぜんに読んだあとで、その字の成り立ちを、こんなふうに話してやるのです。

「暑い夏の日が、かんかん照り付けるところで、お百姓ひやくしやうさんが仕事をしていました。暑いし、それにつかれたので、休みたくなりました。そこで、お百姓さんは、木の陰にはいって、一休みしました。人が木のわきに行くとな、ほら、これが「やすむ」という字なんだよ。」と、休という字を書いてみせるのです。


#### いろいろな会意文字

● 木がたくさんある「はやし」  
林四年リはやし

森一年 シン  
もり  
●  
木がもつとたくさんある「もり」

炎 エン  
ほのお  
● ●  
火と火で「ほのお」

比五年 ヒ  
くらべる  
● ●  
人と人と「くらべる」こと  


並 へイ  
ならぶ  
なみ  
ならびに  
● ●  
人がふたり仲よく「ならぶ」  



明二年 メイ  
ミョウ  
あかるい  
● ●  
日も月も「明るい」  
あきらか  
あける

鳴三年 メイ  
なる  
なく  
● ●  
鳥と口とで鳥が「なく」


島三年 トウ  
しま  
● ●  
「しま」は、海の鳥の住むところなので、鳥と  
山で表わしました。

男二年 ダン  
ナン  
おとこ  
● ●  
田んぼで力を出して働く人は「おとこ」です。

東二年 トウ  
ひがし  
● ●  
木の向こうに日が見える方向が、「ひがし」で  
す。

西二年 セイ  
サイ  
にし  
● ●  
小鳥が巣にかえるのは日が「にし」に  
沈むころです。  


信四年 シン  
信用(まこと)は人の言(ことば)で、いちばんたい  
せつなことです。  
しんよう

言四年 ゲン  
ゴン  
いう  
こと  
● ●  
口から「ことば」の出るようすを表した字です、  
「いう」こと。  


動三年 ドウ  
うごく  
● ●  
重い物でも力を加えると、「うごく」

### 日本で作られた漢字

このようなやり方で日本で作った漢字もかなりあります。

働四年 ドウ  
はたらく  
● ●  
人が仕事のために動くのが、「はたらく」こと  
す。

峠 とうげ  
● ● ●  
山の上り下りの境めが、「とうげ」です。

畑三年 はたけ  
はた  
● ●  
雑木を火で焼いて、切り開いた田を「はたけ」と  
いう。

込 こむ  
● ●  
歩いて(込)中に入り「こむ」こと。

このほか、辻(十字路)、辻(すべ)、凪(風が止む)、凪(木を吹き枯ら  
す風=木枯らし)、榊(神さまにささげる木)、鰯(弱い魚)、鱈(肉  
が雪のように白い魚)など、日本で作られた字もなかなか多くありま  
すが、当用漢字表には、はいっていません。